

広報 就実学園

編集発行
学校法人 就実学園
法人事務局

〒703-8516
岡山市中区西川原1-6-1
TEL(086)271-8117

史料講読会、継続中です！

就実大学人文科学部総合歴史学科 荻米 一志



就実大学人文科学部総合歴史学科の荻米一志と申します。着任は2006年のことですので、ちょうど20年間、就実学園にお世話になっていることになります。

とはいえ、生まれつきなのか、どこへ行っても「外在感」つまり「よそ者感」はぬげず、いまだに組織に対し、どこか他人事と感じる自分があります。これは「長」のつく役職についても変わることはなく、我ながら困ったものだと思います。

ほとんど唯一の例外は、タイトルに記した史料講読会に対する感覚です。この講読会とは、2007年12月から始めた「『実隆公

記』を読む会」のことで、現在まで月一回のペースで一度も休むことなく継続してきました(本学吉備地方文化研究所の事業の一環)。おかげさまで熱心な参加者を得ることができ、この八月で第200回を迎えることができました。自分で始めた会ですので、さすがに他人事と感ずることはなく、第200回の達成には感慨深いものがあります。

『実隆公記』は室町後期の公家・三条西実隆が記した日記で、文明6年(1474)から天文5年(1536)まで、60年以上にわたって記されています。実隆は当時一流の文化人で、達筆でもあったため、さまざまな人々から文化的な諮問や書物の筆写依頼を受けています。おかげで現代の我々は、「当時、どのようなことが文化的な話題にのぼっていたのか」「当時、どのような書物が読み継がれていたのか」といった情

報を豊富に得ることができず。ただし、その文章は格調高く難解で、我々はいざその解釈に悩まされることになります。ここで、いくつかその例を紹介しましょう。

室町幕府第九代將軍・足利義尚は、その晩年に「義熙(よしひろ)」と改名しています。その直前の『実隆公記』の記事には、改名にいたった経緯が記されています。簡単に言うると、「尚(しょう)」の音韻(母音の部分)は「轡(きょう)」に通じ、それは「小さい車」という意味であるから、將軍の名前としてはふさわしくない、というものです。このことは、幕府政所の二階堂政行から相談を受けた中原師富が、さらに実隆に相談して、決して言葉遊びのような次元ではなく、当時の幕府としても深刻な問題であったことが分かります。とはいえ、「しょう」の音

をもつ漢字は他にもあり、それには良い意味をもつものもあるわけですから、我々からすると、ほとんど「言いがかり」のようにも感じられます。しかし、実はこの言語感覚こそが当時の常識なのであり、これにより、先例(有職故実)を重んじることが如何に重要であったかをうかがうことができます。

もう一つの例は、『源氏物語』についてのものです。『源氏物語』乙女の巻には「おほし、かimotoあるじ、はなはだ非常に侍りたうぶ」という台詞が出てきます。『実隆公記』にもこの一文についての考察が記されるのですが、実はこの部分については、現代にいたるまで解釈が一定していません。「おほし」が正しいのか、「おし」が正しいのか、その意味は何か、「かimotoあるじ」には「垣下饗」という漢字をあてて良いか、「非常」とはそのことを発した本人が謙遜として言っているのか、相手に対して非難する意味で言っているのか、といったことが分かっていないのです。このことを知り、背筋

が寒くなった覚えがありません。すなわち「『源氏物語』を完全に現代語訳することはできない！」ということなのです。

ここから敷衍すると、実は歴史資料も、同じではないかということに気づかされます。つまり「歴史学の資料としての古文書や古記録もまた、完全に現代語訳することはできない」「そのようなあやふやなものを基盤として、歴史を研究して良いのか」ということです。「できない」と言ってしまうえば、いわゆる不可知論になりますので、そこまで言うつもりはありませんが、歴史研究の難しさを思い知らされた事例ではありました。

ところで、会はこの12月で第204回を迎えます。1年間に12回の開催ですから、あと8年で第300回を迎えることができます。そして、その時こそ私の定年にあたる2033年度。これまで継続できるかどうか、心もとない限りですが、何とか皆さまのご愛顧を頂き、その目を迎えられたいことを祈っております。

大学・短大の部

心理学部誕生から半年余、活動のご報告

心理学部

教育学部教育心理学科を基盤に、新たに心理学部心理学科が誕生しました。多くの新入生たちと先輩方の共同イベントが多数行われ、良い伝統と新しい革新との出会いがありました。その一部をご紹介します。

7月：企業とのコラボレーション 学生交流会「コロナボ」では、消防服や救助服の再利用方法について、企業でこれらの服を取り扱っている人たちと協議しました。機能面だけでなく、心理学の知識を活かし、心理的価値をどのように付加できるかを考え、企業と学生が意見を交わしました。



10月：心理学部設立記念講演 心理学部の先輩方が協力し、企画か

ら運営までを担当しました。記念講演を通じて、心理学の魅力幅広く発信しました。

11月：学園祭「ハートカフェ」 教育心理学科から続く伝統行事を継承し、「癒し」をテーマに心理学的知見をカフェ形式で体験できるイベントを開催しました。昨年に続き、多くの来場者に好評をいただきました。



心理学部では、異なる視点を持つ人々と協働できる力を育み、社会で活躍できる人材の育成を目指しています。今後も、学生が主体的に学びを深める機会を提供し、地域や社会とのつながりを広げてまいります。

(QRコードより学科サイトへ)



様々な行事で学修・研究の充実や就職を支援

表現文化学科

2025年度、10月末日現在まで、表現文化学科では以下の行事を行なってきました。

4月18・19日、新入生研修旅行を実施し、1日目は堺市のさかい利晶の杜と大阪市の住吉大社を訪れ、名所である反橋(太鼓橋)で記念撮影を行いました。

2日目は奈良市内でグループ研修を行い、1年生も新しい仲間と一緒に楽しく学ぶことができました。

6月7日、博物館散歩を開催し、二次もののけミュージアム(写真)と広島県立歴史民俗資料館を見学しました。

6月24日、学科の在学生・教員と留学生の交流会を開催し、在学生が折り紙の技を披露するなど、楽しい異文化交流の会となりました。

6月25日、「人と出会おう」の講師として、芸術・芸術史を研究されてきた岡山県在住のSF評論家、関竜司先生にお話をいただきました。

10月4日、アニメーション映画監督の片淵須直監督をお招きし、「千年前の言

葉は何を伝えるか」と題して学術講演会を行いました。10月11日、第10回を迎えた身体表現ゼミナールの卒業制作発表会が実施されました。今年のテーマは『溢れ出す内なる色たち』で、4年間の集大成となる発表が行われました。

今後、1月に就職活動支援の会・教職課程の会、ゼミ説明会・卒業研究発表会を開催し、在学中のみならず卒業後を見据えた学生への支援活動を行い、学科の発展を目指してまいります。



就実英文学会総会・公開学術講演会

実践英語学科

2025年11月15日(土)に、実践英語学科が主催する就実英文学会総会および公開学術講演会を開催しました。

総会では、活動報告や会計報告の後に恒例の学生表彰があり、English Gate Prizesが2名、FOEIC Prizeが4名、Reading Prizeが7名、そして教員採用試験の合格者3名の該当者に特別表彰を行いました。

毎年、TOEICで高得点を取得する学生(今回の最高得点は990点中910点)がおり、また教員採用試験に臨む学生がしっかりと結果を残していることは、学科の教育成果が確実に反映されていると言えます。

学術講演会では、カルチュラル・スタディーズの専門家であり、国際演劇評論家協会の日本センター会長である本橋哲也先生を講師にお迎えしました。演劇とポストヒューマンという現代思想に通じる観点から「シェイクスピアの『ハムレット』におけるスポーツとジェンダー」について

て、刺激的で専門性に満ちた講演をしていただきました。過去と現在の時代をつなぐ視座としてカルチュラル・スタディーズの理論が紹介され、「言葉」の意味に込められた多義性がシェイクスピアの劇世界において、どのように複雑で重層的な演出として提示されるのか、さながら大学院の講義のような充実した内容でした。講演者の真剣なお話に対して、学生は一生懸命に内容を咀嚼してコメント・ペーパーを書いてくれました。



新入生歓迎企画
「校内古墳巡り」

総合歴史学科

2025年5月25日(日)に就実・森の学校との共催で「校内古墳巡り」を行いました。就実・森の学校には、操山古墳群に属する6世紀後半の古墳が現存しています。今回は笠井山とその周辺の古墳を見学しました。



当日は、大学から貸し切りバスで就実・森の学校に向かいました。講師の乗岡実先生や引率の石田省三先生から、操山古墳群の概要や金蔵山古墳の特色を説明いただいた後、午前は笠井山の山麓に点在する古墳群を見学しました。横穴式の古墳群は石室が露出した状態で残されており、なかには石室の内部に入ることができるものもあります。学生たちも実際に石室に入ってみ学しました。

後は金蔵山古墳・沢田大塚古墳を見学しました。金蔵山古墳は竪穴式石槨をともなう前方後円墳で、4世紀後半〜5世紀初頭の造営とされています。古墳の上に登り、その大きさを実感するとともに、



祭祀の場として設けられた島状遺構などを実地で確認しました。乗岡先生は、古墳の形状や発掘調査の成果に加えて、戦国時代に宇喜多氏が陣地を設けるなど金蔵山古墳が後世に再利用された様子を説明くださいました。後円墳の頭頂部に露出する竪穴式石槨の内部を写真で撮影するなど、学生たちは興味深く見学していました。沢田大塚古墳の石室の内部を見学した後、バスで大学に戻り、解散となりました。

学科講演会「工芸と『生活』」を開催しました

生活実践科学科

2025年9月16日、生活実践科学科講演会「工芸と『生活』」、本学科「実现就くプロジェクト」との併催により「生活実践科学科ミニトーク」を、学生・一般を対象とし、開催しました。

ともに岡山県出身で、ふるさとに工房を構える、ガラス工芸作家の有松啓介先生、陶芸作家の十河隆史先生をお招きし、対談形式により実施。「生活」の魅力についてお話を伺いました。

有松先生は、学科専門科目の前期「工芸実習Ⅰ(ガラス工芸)」を担当、東川原にある先生の工房で、多彩な技法をご指導くださっています。玉野市に工房のある十河先生は、後期「工芸実習Ⅱ(陶芸)」で、学生が制作した食器に手料理を盛り付けられた画像を紹介、ご自身の作品の「引きき」という技法の難しさの魅力についてお話しくださいました。先生方が、工芸作家になるまでの経緯や創作上

の工夫、ご苦心について、学生からも思わず声があがるほど面白い作品画像により紹介、貴重な作品もご持参くださり、工芸の魅力に直にふれることができました。

「学科ミニトーク」では、この3月に退職された森安秀之先生と卒業生で学園事務局に勤務されている渡部真子さんにより、在学中の学び、担任の森安先生の思い出、社会人としての努力されていることについてお話があり、在学生へのよきアドバイスとなりました。

行事後、先生方を囲み和やかに懇談しました。短期大学同窓会各位もお出ましく下さり、学科開催としては、最後の感銘深い講演会となりました。



なでしこ祭にぎやかに特別講演会と里帰りトーク会

幼児教育学科

なでしこ祭2日目の10月26日(日)13時よりS102大講義室において、幼児教育学科特別講演会が開催されました。今年度は、短大フェイナルイベントの一環として、在学生だけでなく、本学科卒業生や恩師、学園内教職員のみならず、盛大にお願いいただき、盛大にありがとうございました。

講師に津山市在住の大人気インフルエンサー蓬郷由希絵さんをお迎えし、「私が笑って育てた子は知的障がいを伴う自閉症児と健常児」というテーマで講演いただきました。奇抜なファッションで登場、終始ユーモアを交えながら、学生の心に直接響く言葉でお話くださり、会場は笑いあり涙ありの感動に包まれました。学生代表



からはお礼の言葉と共に、「自分自身の実習を振り返り、もっと理解を深めたいと思います。」という感想が述べられました。

講演会の後は、Sコモンズにて卒業生たちがお茶やお菓子を囲み集う「里帰りトーク会」が開かれました。久しぶりに会う同窓生たちは、互いに誘い合い、子ども連れやご家族でも参加してくださった方も多く、花を忘れておしゃべりに花を咲かせていました。また懐かしい



恩師の先生方も駆けつけてくださり、短大時代の思い出を語り合う楽しいひとときとなりました。残すところあと3ヶ月、幼教の学生たちとの日々を一日一日大切に過ごして参りたいと思います。

「保幼小現場体験報告会」を開催しました

教育学科

2025年10月29日、「保幼小現場体験報告会」が行われ、1年生がこの夏5日間の保育・教育現場で学んだことを発表しました。現場を肌で感じることは、1年生にとって「先生への憧れと責任やりがい」を実感する上で大きな意味があったようです。

学生たちはそれぞれのグループで報告書にまとめ、プレゼンテーションを作成しました。報告からは、「子供たちから先生」と声を掛けてくれ、先生として見てくれたことがうれしかった」「子供の成長する喜びや達成感に出会え、仕事のやりがいを感じた」「子供は一人一人違うので、それぞれを理解しようとするのが大切だと感じた」など、貴重な体験となっていたことがうかがえました。

「保幼小現場体験」は、本学独自の科目であり、大きな特徴となっています。座学での学びが、それぞれの施設での体験を通して、実感とした学びとなり



将来の進路を目指すうえで大きな力となっています。また、報告会では、保育者を目指す

す学生、小学校教諭を目指す学生、特別支援学校教諭を目指す学生が、共に交流することによって、他の職種を意識し、視野を広げることにもつながっています。グループでプレゼンのためのパワーポイントを作成し、発表分担を決めて原稿作成する過程も、良い経験だと思います。



川崎医療福祉大学の看護学生と研修会を開催しました！

薬学科

就実学園は、教育研究活動の充実や地域社会の発展に役立つよう川崎学園と「包括連携協力に関する協定」を結びました。この協定に基づいて、2025年8月5日と7日の2日間、本学の薬学生と川崎医療福祉大学保健看護学部の学生を対象に、教育連携研修会を行いました。



今回の研修会では、在宅の患者さんに対するケアを想定した「患者シナリオ」を活用した体験型演習を行いました。①医療職連携の重要性の理解、②コミュニケーション力、③チームワーク、④倫理的配慮、⑤実践への応用の可否に関する力を身に付けることを目的としました。

実際の演習では、シ

ナリオを通じて、患者さんやそのご家族が抱えている問題とその解決策について色々な角度から議論しました。学生からは、他職種との連携を考慮する上で「自分が思っている視点を相手も同じように見ているとは限らない」「お互いの知識を共有することが大切」「患者さんも含めて、病気に對する認識や治療の目標などをあらかじめ一致させておく重要性を実感した」などの声がありました。



今回の研修会を通して、職種ごとの視点の違いを体感するとともに、互いの専門性を理解・尊重しながら活発な意見交換ができていたと思います。今回の経験した協働の可能性を生かし、医療現場での活躍に繋がってほしいことを期待しています。

就実EJコン2025 (ビジネスプランコンテスト)を開催しました

経営学科

2025年9月11日に就実EJコン2025(就実大学経営学部主催、就実経営学会後援)を開催しました。本ビジネスプランコンテストは、地域における新たな事業創出や課題解決の可能性を探るべく、学生自らがビジネスとしての提案を行い互いに競い合うものです。

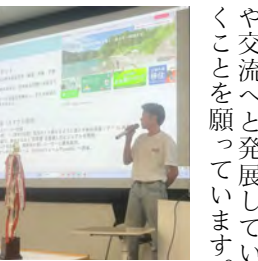
これにより、新規ビジネスに関する提案力や課題解決力の向上を目的としており、経営学部の「実にくプロジェクト」の一環として実施しています。例年は特別講義Ⅱ受講生が中心となって参加していましたが、今年度は幅広く3年生ゼミに声をかけるなどして、9グループ・個人が参加しました。当日は、斬新なアイデア勝負のグループあり、実現可能性を具体的に測るため需要調査を行うチームなど、多数の学生が参加し、斬新なアイデアに基づくプレゼンテーションが披露されました。

外部の審査委員をお



招きして、ビジネス目線からの具体的で鋭い指摘がありました。学生

生はこうした指摘に対して真摯に回答を考えました。このほか、教員からの質問が寄せられ、審査員の講評や参加者同士の意見交換を通じて、多くの学びや気づきが得られ、今後の活動にもつながる有意義な時間となりました。



本コンテストをきっかけに、地域から新たなビジネスの芽が育ち、未来へと広がる出会いや交流へと発展していくことを願っています。

高校・中学の部

体育祭



今年度の体育祭は、9月24日に中学、25日に高校二・三年生、26日に高校一年生の三日間、ジッブアリーナ岡山で開催されました。当時は珍しかった熱中症対策としての屋内開催も定着し、20年を越えました。中学体育祭では、十分なりハールができない中でも各クラスが団結し、全力で競技に取り組み姿が印象的でした。フィナーレに



はダンス部が考案したダンスを全員で披露し、元気あふれる演技で会場が盛り上がりました。高校体育祭では、各学年の実行委員を中心に準備が進められました。高校一年生の集団行動、二年生の1分間パフォーマンス、三年生の仮装はどれも息の合った演技で見応えがあり、観客席を熱気で包みました。生徒たちは勝敗を超えて全力を尽くし、教職員も共に盛り上がる充実した三日間となりました。

文化祭

今年のテーマは「咲き誇れ、虹色の花」でした。昨年度と違い、今年度は1日の開催でしたが、好評だったキッチンカーを今年も導入したいという声が多く挙がったので、最初は生徒による屋台村のみ、昼前からキッチンカーも営業するというように時間差をつけて販売してもらいました。その他、部展やステージ、縁日、PTAによる出店などの企画も好評でした。展示をしたコースや校内の装飾をしたコースなど、多くの生徒が文化祭にかかわることができ、一日では全て回り切れないほど多くの催しで校内は賑やかでした。また、テーマ



にちなんで、大量の「虹色の」シャボン玉で演出するオープニングセレモニーを新たに企画しました。音響のトラブルなどがありましたが、次につながる挑戦をすることができたと思います。今年度は巨大制作に加えて、渡り廊下には美術部やNACと協力して製作した横断幕も吊り下げ、校舎に「華」を添えました。



高知防災研修(一年)

中学未来創造コース

未来創造コース1年生の高知防災研修は、10月23日から二日間、目標とする「一歩前へ・協力・継続」の実践と「学年全体が一つのチームになる」ことを見事に達成し、実り多いものとなりました。モンベル本山の防災学習は、避難生活を「自分事」として捉え直す絶好の機会となり、非常食の試食やテント設営といった実践を通じて、災害時でも快適な「生活の質」を維持するための具体的な知恵を得ました。事後のアンケート結果にも「災害に怖いものではなく、備えをすれば快適に過ごせる」という意識の変化が見られました。また、吉野川でのラフティングでは、掛け声を



かけ、互いを助け合う活動を通して「チーム」の力を体現しました。さらに、世界に誇る建築工事を行う「技術製作所」での「圧入技術」との出会い、未来への視点を育むことができたと思います。「仕事に銘を打て」という会社のモットーは、自己のキャリアを深く考える上で、示唆に富む学びとなりました。高知で得た防災知識と、仲間との揺るぎない絆、そして勇気を出してみる「一歩前へ」の姿勢は、今後の学校生活における協働的な学びの礎となり、生徒たちの大きな成長につながると確信しています。



修学旅行報告

高三チャレンジコース

今回の修学旅行は、福島での震災学習と、関東での思い出作りという二つの貴重な経験をする事ができました。

初めて訪れた福島県での震災学習は、大変重たい学びとなりました。語り部の方から直接、当時の壮絶な体験や復興への道のりを伺い、その強い言葉一つひとつに心を打たれました。教科書では知り得ない、命の尊さや助け合いの精神といった

修学旅行報告

高一総合進学コース

初日は台風の影響が少しありましたが、その後は好天に恵まれました。

一日目は横浜市内のガイドブックをクラスごとに作成するために班別で活動しました。事前に調べておいた中華街や赤レンガ倉庫、グルメなどを取材することができたようです。夜のディナークルーズではおいしい食事を仲間と味わい、東京の夜景をバックにデッキリで写真を撮り、最後はス

「生きた教訓」を深く胸に刻むことができたのではないのでしょうか。

そして初日の宿泊はホテルハワイアンズ。全員がアロハシャツやムーニーを着用し、開放的な気分を過ごしました。特に、迫力満点のフラダンスのショーは感動的で、震災学習で張り詰めた気持ちを癒してくれたように思いました。また、大きな温泉にもゆっく



テージで歌やダンスを披露して大いに盛り上がりました。



二日目の午前中は、別研修を行いました。人文系と教育系は、RED TOKYO TOWERのespots体験、またはチームラボプラネットズで五感を使って美術作品を鑑賞しました。医療系は、くすりミュージアムで薬の歴史などについて学び将来の進路について考え

りと浸かり、心身ともにリフレッシュできたのも良い思い出です。

二日目からは場所を関東に移し、ディズニールランドや浅草周辺の散策を友人と心ゆくまで楽しみました。この旅行で得た深い学びと、仲間と分かち合った喜びを忘れず、これからの生活に活かしてほしいと思います。



る機会になったと思います。午後は全員で東京宝塚劇場で月組の「GUYS AND DOLLS」を鑑賞し、プロのダンスや歌に魅了されました。



関西研修(1年) 関東フィールドワーク(2年)

中学特別進学コース

中学特別進学コース一年生は、11月10日(月)12日(水)に関西研修を実施しました。この研修の目的は「①京都大学を見学し進路意識を高める②DGSを題材に多面的に物事を考える力を育成する(探究の方法を学ぶ)③観光を通して日本の文化を学び、グローバルな視野を広げる」です。

大切なことやプレゼンテーションの効果的な方法を学びました。最終日午前中の発表会では、実際の見学や学びを生かした発表が見られました。最後に嵐山で自由に散策しましたが、訪日観光客の多さに生徒も驚いている様子でした。3日間、探究活動を中心とした学びと、観光が一緒になったとしても中身の濃い、充実した研修となりました。

三日目はディズニールゾートでランドとシーに分かれて一日楽しみ、最終日はスカイツリーからの浅草散策と充実した四日間となりました。

二年生は、10月30日(木)から、2泊3日の日程で関東FWに行ってきました。初日は国会議事堂の内部を見学、普段は見ることのできない国の中枢に触れ、将来のキャリア設計に関する意識にも変化が見られました。



午後はTOKYO GLOBAL GATEWAYに行き、テレビ局での番組制作や空港でのやり取りなど、さまざまな場面面で英語を「使う」体験をすることができたと思います。2日目の企業訪問では、土地勘のない東京で電車や地下鉄を乗り継いで目的地まで行き、企業の取り組みについて話を伺ったり、事前研修で用意した質問に答えていただったりする中で、今後の探究活動のヒントになる知識を得るよい機会になったと思います。最終日に訪れた上野では美術館や博物館での展示を鑑賞し、浅草では名物の赤ちようちゃんを見たり、浅草寺を参拝したりして最後の1日を楽しみました。思い通りにいかないこともありましたが、失敗も含めて多くの学びを得た3日間となりました。



高校・中学校オープンスクール

高校・中学校ともに全三回のオープンスクールを開催いたしました。多様な希望に対応すべく企



画した「在校生による学校紹介」は、参加者との交流を深める場として高い評価を得ました。また、「中学校の土曜日授業見学」には多くの保護者の参加があり、関心の高さを改めて認識しております。体験講座や、自由な形式で校内をご見学いただけるスタイルも支持を集めました。次年度も、学校の魅力を効果的に伝えるための広報活動を、教職

第53回吹奏楽部定期演奏会

吹奏楽部は11月9日(日)に第53回定期演奏会を開催させていただきました。昼の部、夜の部の2公演で約三〇〇〇人のお客様にご来場いただきました。今年は新しく開館した「芸術創造劇場ハレノワ」での開催ということで真新しいホールにお

お客様も私たちも大いに盛り上がり楽しいコンサートとなりました。クラシックからポップス、ジャズなど多彩なジャンル。そして演奏はもちろん、歌にダンスに合唱、スタンドプレーと部員たちのキャラクターと技がき



らりと輝きました。



員一同協力して進めてまいります。

* 令和8年度 入学試験日程 *

中学校	1期	3教科型	特別進学コース (ハイグレードクラス)	国語・算数・理科・面接	令和7年12月7日(日)
		適性検査型	特別進学コース (ハイグレードクラス) (アドバンスクラス)	検査Ⅰ・検査Ⅱ・面接	令和7年12月13日(土)
	2期	2教科型	特別進学コース (アドバンスクラス) 未来創造コース	国語・算数・面接	令和7年12月14日(日)
		2教科型	特別進学コース (アドバンスクラス) 未来創造コース	国語・算数・面接	令和8年1月12日(月・祝)

高等学校	選抜1期	特別進学コース (アドバンスクラス)	<input type="checkbox"/> 学力入試 <input type="checkbox"/> 特別推薦入試 <input type="checkbox"/> 併願推薦入試	国語・数学・英語・面接 面接 面接	令和8年 1月22日(木)
		特別進学コース (ハイグレードクラス)	<input type="checkbox"/> 学力入試	国語・数学・英語・面接	令和8年 1月23日(金)
		特別進学チャレンジコース	<input type="checkbox"/> 学力入試 <input type="checkbox"/> 特別推薦入試 <input type="checkbox"/> 併願推薦入試	国語・数学・英語・面接 面接 面接	
	選抜2期	総合進学コース	<input type="checkbox"/> 学力入試 <input type="checkbox"/> 特別推薦入試 <input type="checkbox"/> 併願推薦入試	国語・数学・英語・面接 面接 面接	令和8年 2月17日(火)
		特別進学コース (アドバンスクラス)	学力入試	国語・数学・英語・面接	
		特別進学チャレンジコース			
	総合進学コース				

夏の全国大会出場

- 【高校女子バレーボール部】令和7年度全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技大会 第3位
- わたしたSHIGA輝く国スポ(第79回国民スポーツ大会)少年女子バレーボール競技 優勝
- 【高校女子ソフトテニス部】令和7年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス競技大会 出場
- 近坂・足利ペア 個人戦第5位 出場
- 花房・古田ペア 岡田・西邑ペア ベスト64 出場
- 藤原・倉本ペア 団体戦 出場

サッカー部

岡山県高等学校

サッカー選手権大会 準優勝

この度の岡山県高等学校サッカー選手権大会決勝戦におきまして、岡山学芸館高校に延長戦の末0-1で敗れ、準優勝と



- TOCジュニアオリピックカップ/第32回全日本ジュニアソフトテニス選手権大会
- U20ダブルス優勝 近坂・足利ペア
- U20シングルス第5位 足利菜奈
- 【高校女子バスケットボール部】令和7年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会 出場
- 【高校ワンダーフォーゲル部】令和7年度全国高等学校総合体育大会登山大会・第69回全国高等学校登山大会 団体女子14位
- 【高校体操部】令和7年度全国高等学校総合体育大会体操競技大会兼全国高等学校体操競技選手権大会 安原 穂波

いう結果に終わりました。目標としていた全国の舞台には届きませんでした。が、選手たちは最後まで全力を尽くしました。何よりも、熱い応援で支えてくださった全ての皆様、心より感謝申し上げます。試合中は、ダンス部の皆さんをはじめ、大勢の生徒の皆さんがスタンドに駆けつけてくださり、選手に大きな力を与えてくれました。学校、保護者の皆様、そしてOBの方々を含め、

- 小西 栞 出場
- 【高校陸上競技部】令和7年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会
- 400m 古野 智也 出場
- 走幅跳 小川 依緒莉 出場
- やり投 安藤 柚希 出場
- 100mハードル 高橋 佑奈 出場
- 三段跳 川井 彩矢果 出場
- 400mハードル 鳥津 夏 出場
- 4×400mリレー 鳥津 夏 志温 小西 ちさ 大森 琴羽 出場
- わたしたSHIGA輝く国スポ

学園全体が一体となって戦ってくださったことに深く感動しています。今後も、引き続き熱いご支援・ご声援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



- (第79回国民スポーツ大会)陸上競技 女子少年A100m 高橋 佑奈 第6位
- 【水泳クラブ】令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会
- 400m自由形 山口 絢女 出場
- 800m自由形・400m個人メドレー 渡部 桜奈 出場
- 【高校放送文化部】第72回NHK杯全国高校放送コンテスト
- アナウンス部門 小竹 芹奈 優良賞
- 朗読部門 山口 紗世 入選
- 大福 奈桜 白綱 彩乃 飯綱 由優子 井上 ラジオドキュメント部
- 「フリーコイ復興」出場
- 第49回全国高等学校総合文化祭
- アナウンス部門 山口 紗世 出場
- 朗読部門 大福 美琴 特別賞
- オーディオメッセージ部門 「戦国の弓」日置當流 出場
- 【高校文芸部】第49回全国高等学校総合文化祭・文芸部
- 散文部門 高橋 嶺太郎 出場
- 【高校ダンス部】第49回全国高等学校総合文化祭 出場
- 【高校ダンス部】全国高等学校ダンスドリル選手権大会
- HIP HOP女子部門 HIP HOP女子部門 Small編成 出場
- 【中学ダンス部】第十五回全国中学校ダンスドリル選手権大会
- HIP HOP女子部門 HIP HOP女子部門 Small編成 出場

- 【中学バレーボール部】第55回全日本中学校バレーボール選手権大会 出場
- 【中学ソフトテニス部】第56回全日本中学校ソフトテニス選手権大会 松尾・森下ペア 個人戦 出場
- TOCジュニアオリピックカップ/第32回全日本ジュニアソフトテニス選手権大会
- U14ダブルス準優勝 龜山 紗和
- 【中学演劇部】第25回全国中学校総合文化祭わかふじ大会 出場
- 【中学放送文化部】第42回NHK杯全国中学校放送コンテスト
- アナウンス部門 羽原 実優 兼信 茉央 中川 陽未 佐藤 愛華 出場

小学校の部

祝 就実小学校 創立10周年記念式典

就実小学校は、2015年の開校から11年目の節目となる2025年8月25日(月)、岡山芸術創造劇場ハレノワ大劇場にて「創立10周年記念式典」を盛大に挙行いたしました。ご来賓、卒業生とその保護者様、在校生とその保護者様が一堂に会し、これまでの歩みに感謝し、新たな10年への決意を胸にお祝いしました。

感謝と決意を新たに した式典(第一部)

式典は、小学校の10年の歩みを振り返る動画で幕を開けました。海野誠二学校長による式辞に続き、本学園の西井泰彦理事長からご挨拶をいただきました。また、オーストラリアの姉妹校、Broadbeach State Schoolからの温かい日本語のビデオメッセージが会場に届けられ、国際的な絆を感じるひとときとなりました。



保護者会会長様からはご挨拶と共に、卒業生同士の交流の場として、毎年7月の最終週土曜日に「卒業生の集い」を実施していくことが紹介されました。さらに、会長様より海野校長へ記念品目録が贈呈されました。特にゼロバンクス代表の室伏様からの多大なご厚志により、校内のLAN配線工事とアクセスポイントの交換、さらには10ギガ化が実現。本校のICT環境は飛躍的に充実し、子供たちが世界とつながり、主体的に学ぶ未来志向の教育をさらに推進してまいります。

在校生を代表した6年生2名は、小学校での学びと未来への夢を力強く語りました。自信に満ちあふれた姿は、とても頼もしく感じました。また、卒業生代表として登壇した第1期生の鉄永さん

は、イギリス留学の経験や後輩たちへのメッセージを流暢な英語を交えてスピーチし、憧れの姿として在校生の心に深く刻まれました。



式典の締めくくりは、全員での校歌「明日をめざす就実小の子供」斉唱です。初代校長の森熊男先生が作詞された校歌は、素晴らしい自然の姿や、生き生きとした子供たちの姿が目前に浮かんでくる歌詞となっています。1番から3番それぞれ別の歌詞の中には、「川」「山」「空」が順に表現されており、それらは本校が目指している「かしこく」「やさしく」「たくましい」子供たちの姿へとつながっています。この歌は、在校生のみならず、卒業後も母校を思い、前向きに生きていく力を与えてくれる大切な歌です。

子供たちの情熱が 輝いたステージ(第二部)

第2部は、6年生実行委員長の心こもった挨拶で幕を開けました。



ステージ発表では、1年生が「ミッキーマウスマーチ」に合わせて登場するやいなや「かわいー!」という声が客席から上がり1000人の視線が一気に舞台に注がれました。大劇場がひとつのファミリーとなった瞬間でした。続く2年生からは5年生、そして卒業生が、歌、ダンス、縄跳び、合唱、ミュージカル風の演出など、個性豊かな発表を堂々と披露しました。これらのステージは、子供たちが自ら名乗りを上げ、時間をかけて準備を進めてきた情熱の結果です。

「10周年みんなで盛り上げよう」のコーナーでは、本校ミュージッククラブと関西高等学校吹奏楽部(6年生保護者が顧問)とのコラボレーショ

ンが実現。「ケセラセラ」「情熱大陸」の演奏に合わせ、6年生4名が企画したフラッグや蛍光ライントを用いた華やかなダンスが披露され、会場全体が一体となりました。



そして、第2部の最後を飾ったのは、長年の夢であったCD出版校歌の斉唱です。小学校設立準備室の頃から在職しているCD先生の尽力により実現した英語版校歌は、大劇場いっばいに響き渡り、就実小学校に関わるすべての人々の心を一につけ結びつけ、子供たちが世界へ羽ばたく夢を象徴しました。



未来へつなぐ絆

この記憶に残る素晴らしい記念式典は、保護者の皆さまのご支援、そして何よりもステージで堂々と発表し、客席から熱い声援を送った子供たちの努力と情熱の賜物です。

特に、3月から準備を重ね、行事と並行しながら最後までやり抜いた6年生実行委員会の子供たちの活躍は特筆に値します。彼らの努力のおかげで「子供たちによる子供たちのためのセレモニー」は見事に完成し、その姿は未来を担うリーダーとして本場に立派なものでした。

就実小学校は、これまでの10年を確かな礎とし、新たな10年に向かって力強く歩みを進めてまいります。保護者の皆さま、卒業生、地域の方々、そして在校生がひとつにつながる「就実ファミリー」として、子供たちが世界に羽ばたく、大きな夢を実現していただけるよう、これからも力を合わせてまいりたいと思っております。引き続き、本校への温かいご理解とご協力をお願い申し上げます。

こども園の部

食育活動 《サトウキビ》

《5歳児》

10月17日、園で栽培していたサトウキビを使った食育活動を行いました。いつもお世話になってる石田先生や就実の森の先生、瀬戸内市でサトウキビの栽培・販売をされている末石さんが来てくれ、サトウキビについてのお話を聞いたり、サトウキビの収穫・皮むき体験をしたりしました。また、実際に目の前でサトウキビを絞って試飲をしたり、ソフトクリームを作ったりしました。サトウキビから甘い汁やソフトクリームができることを不思議そうにしながらも、「とっても甘く



ておいしい!」と大満足の子も達でした。サトウキビの特徴を知ること、興味・関心を深めたり、普段、当たり前のように口にしてる砂糖ができるまでの過程を知ること、食べ物ができるまでの大変さを感じたりしていました。子ども達にとって、とても貴重な体験となりました。

生活発表会

《4歳児》

11月21日、生活発表会を行いました。お客さんを前に緊張する子どももいましたが、そのドキドキをパワーに変えて一人一人が力を発揮することができました。劇遊びでは、子ども達の発想を基に創り上げた『お菓子の好きな魔法使い』・絵本を題材にした『ブレーメンの音楽隊』にクラス毎に挑戦しました。役々に張りきりながら動きやセリフ等、アイデアを出し合いながら物語を形にする過程を楽しみました。合奏では、5種類の楽器を使い、指揮に合わせながら演奏しました。途中には歌唱もあり、元気な歌声

が遊戯室いっぱいに響きました。合唱では、英語の歌とクラスで歌ってきた曲の中から子ども達も選んだ4曲を繋いだメドレーを歌いました。普段から歌ってきた曲だからこそ、自信をもって声を出し、振り付けを交えながら楽しんで歌うことができました。発表会を終えた子ども達の表情は、達成感と自信でいっぱいでした。



初めての英語遊び

《3歳児》

11月7日に初めての英語遊びがありました。一学期からとても楽しみにしていたので「今日は、英語があるよね」「やったー!」と朝から嬉しそうに話をする子ども達。非常勤講師の先生に「Good morning」と元気いっぱい挨拶をして始めました。動きを付けながら「Stand up」「Sit down」を教えてもらい、自分の名前を言ったり、カラーボールを用いて色

を発音したりして一人ずつやり取りをしました。少し緊張したり、恥ずかしそうにしたりする姿も見られましたが、非常勤講師の先生の口の動きを見ながら英語をよく聞いて、発音することができました。みんな一緒に英語の歌を歌い、音楽に合わせて喜んで体を動かしながら「Happy」「Angry」などの気分を表現し興味津々で参加しました。今後の英語遊びも楽しみながら英語がより身近に感じられるようにしていきたいです。



お散歩

《2歳児》

10月24日に大学へ散歩に行きました。お散歩ロープを持って歩いて行くことが初めてでしたが、横断歩道では手を上げて渡ったり、車が来ると立ち止まったりして、交通规则を守りながらしっ

かり歩くことができました。構内には、薔薇がきれいに咲いていて、子ども達も「お花、きれいだね」と喜んで見ていました。また、落ち葉や木の実を拾ったり、虫を見つけて観察したりするなど、秋の自然にも触れながらみんなでお散歩を楽しむことができました!帰り道に「楽しかったね!」と嬉しそうに話していた子ども達。収穫した落ち葉や木の実を大事にビニール袋で作ったお散歩バッグに入れて、お家にお土産に持って帰りました。

運動会(こっこ)

《0・1歳児》

10月16日に運動会(こっこ)がありました。今年度は、お菓子の国をテーマに、元気いっぱい体を動かして遊べるプログラムを考えました。

子ども達は、ティアラや王冠を付けて、お菓子の国のお姫様の誕生日パーティーへお出かけします。

そこには、お菓子の車、ドーナツのトンネル、ケーキの一本橋など、可愛い遊具がたくさん。普段から楽しんできた運動遊具が、可愛いお菓子の遊具に変身して、子ども達は大喜び!たくさん体を動かして遊びました。運動遊具の真ん中には、大きな誕生日ケーキがあり、イチゴの飾りつけをしました。次々とイチゴを乗せていき、とても美味しそうなお菓子が完成しました。

最後はみんなで、「わーお!」と「ぐるぐるどっかーん」を踊りました。大好きなお家の方と一緒にたくさん体を動かして、楽しい運動会(こっこ)になりました。



就実学園の発展に尽力され、惜しくも逝去された先生方を偲び、そのご功績と温かなご指導に感謝を込めて追悼の辞が寄せられました

故押谷善一郎学長を
偲んで



小田 希望

押谷先生は、平成17年から平成25年まで学長を務められ、平成28年には瑞宝中綬章も授与されました。先生をご存じの多くの方は、豪胆で親分肌な印象をお持ちなのではないでしょうか。『男はつらいよ』の寅さんをよなく愛す、義理人情に厚い先生でした。いつだったか大学行事の挨拶で、薬学部五味田先生とお二人、カラフルな「Love就実Tシャツ」を着用され、壇上でハイタッチ。場をおおいに盛り上げておられた姿が思い出されます。アメリカ文学を御専門とされ、入学式・卒業式では、ずっと自作の英語の詩を学生達に贈っておられました。ある時、「たいしてうまくもない詩を書かんでもいいのにと、言う人もいると思います。でもな、何の記憶にも残らん無味乾燥な式やなくて、そういえば学長が何か英語の詩を詠んでたなぁと、就実の学生達に何かを感じてほしいんや。毎年、書くのは大変なんやけどな。」とぼろり。繊細な一面もお持ちで、何よりもいつ

も学生のために、大学のため何かできないかというお気持ちの強い先生でした。

個人的に思い出されるのは、研究室のドアを勢いよく鳴らし「小田さん、元気にやっていますかぁ」と様子を見に来られる度に何かしでかしてしまったかどきまぎしたことです。私自身は英語学が専攻ですが、母校で私の指導教員と同僚であったご縁で就実に着任して以来、年の離れた後輩として気にかけて頂きました。あの「小田さん、元気にやっていますかぁ」という少し高め元気なお声が大変懐かしく偲ばれます。心よりご冥福をお祈り申しあげます。

故武内眞吾校長を
偲んで



秋山 圭子

去る令和7年7月17日に、高等学校・中学校の第9代校長を務められた武内眞吾先生が享年92歳にて逝去されました。武内先生は社会科の教員として熱心に教鞭をとられ、中学教頭に就任後、入学者数が激減する厳しい状況を立て直すべく中学校改革に着手し、学力と特技をともに伸ばすために「Academic and

Activities」を掲げて中高一貫の教育体制を確立することと、活力ある中学校づくりに尽力されました。また、高校教頭に就任されてからは、現在の特別進学コースの前身となるEコースにおける土曜日の6時間授業（八・六制）の導入を受け継ぎ、国公立大学への合格者を安定的に打ち出していくための体制づくりにも貢献されました。1994年（平成6年）4月より高校・中学の校長として2002年（平成14年）3月までの8年間、少子化が急速に進む中、難局を乗り越え舵を取ってくださいました。さらに岡山県の私学振興財団理事長をはじめ私学関連の要職を歴任され、長年にわたり就実学園のみならず岡山県の私学教育を支えてこられました。これまで武内先生から賜りましたご厚情に心から感謝いたしますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

故早津彦哉薬学部長の
思い出



見尾 光甫
早津彦哉先生は、東京大学助教、岡山大学

学教授を経て就実女子大学に移られ、薬学部を設置に尽力され、2003年から2007年まで就実大学薬学部長を務められました。分子生物学・核酸化学分野で世界的な業績を上げられ、日本環境変異原学会学術賞、日本薬学会学術賞をはじめとする数多くの賞を受賞され、その功績により、紫綬褒章、瑞宝中綬章、高松宮妃癌研究基金学術賞などを授与されました。

私事になりますが、私が学生のころ、早津先生の授業は毎回最新の研究論文の紹介から始められており、学生に研究の面白さを伝えるものでした。2001年暮れに、早津先生からお誘いを受け、片岡洋行先生とともに就実大学薬学部設置準備のお手伝いを致しました。文科省提出書類の作成やカリキュラム策定、実験設備の選定など、早津先生の情熱に引っぱられながら議論を重ねた日々を懐かしく思い出します。薬学部発足後は、早津先生は学部長としてお忙しい中、私の担当するゼミや担任学生との食事会にも参加して下さいました。早津先生の授業を受けていなければ、私は研究の面白さに気づくのが遅れたと

思いますし、早津先生がいらっしゃらなければ、本学に移ることも、本学薬学部の発足もなかったのではないかと思います。学生時代から今まで、様々な形で導いていただいた早津先生に、心から感謝しつつ、ご冥福をお祈り申し上げます。

